



県立図書館は本を借りるだけの場所？

愛媛県立図書館長 渡邊 洋人

県立図書館は、「県民にとって役に立つ図書館」を目指し、県民の課題解決や調査研究等を支援するとともに、地域文化の発展に寄与することを目的としています。ここでは本の貸出・返却以外の主な図書館サービスを紹介いたします。

1 県立図書館の利用概況

県立図書館は松山市堀之内の県美術館新館の南側、南館の東側に位置しています。県庁西駐車場を2時間まで無料で利用できます。

昨年度の利用状況は、入館者数が約21万人(2階学習室を含む来館者数は約33万人)、蔵書数約66万冊、館外貸出数は約16万冊、協力図書(県内の小中高・特別支援学校、市町立図書館、公民館等の団体や読書グループを対象に一括して貸し出す)約3万3千冊、調査・相談(レファレンス)サービス約1万9千件、複写サービス約4千件の利用がありました。

2 本の貸出以外の主な図書館サービス

(1) 子ども読書室・読書支援センター(1階)

- ・ブックトーク：小中高校・特別支援学校対象。年間14校で実施。
- ・授業DEブックトーク：授業の内容に関連する本の紹介。より良い学びや読書につなげる。
- ・おはなしだいすき！：ボランティアによるおはなし会。毎月第1・3土曜日に開催。
- ・子どもの読書活動推進のための研修会：子どもの読書活動に関心のある方を対象にスキルを高めるための研修会。年間4回実施。
- ・自由研究相談会：夏休み中に2回実施。
- ・ひみつの図書館たんけんツアー：小学生対象。こどもの読書週間、夏休み中に実施。
- ・子どものための講演会：小学生中学年以上対象。専門家の話を聞く講演会や演習。読書への動機付けを行う。
- ・高校生のための図書館のミカタ：学習のための図書館の利用方法や小論文の書き方を学ぶ講座。
- ・『探検しよう！本の国』：幼児から中高生まで対象、昨年1年間に発行された本の中からおすすめの本50冊を紹介したパンフレットの作成。



(2) 一般図書室(3階)

- ・課題解決サービス：「子育て支援情報」「医療・健康情報」「ビジネス情報支援」コーナーの設置。課題解決を支援するための関係図書・情報の提供、司書による相談・情報発信。
- ・ビジネスなんでも無料相談会：起業・創業を目指している方、中小企業の経営者、自営業者などを対象。中小企業診断士と司書が対応。
- ・YA(ヤングアダルト)サービス：中高生におすすめの本を紹介するコーナーの設置。『YAつうしん』の発行。
- ・商用データベース：約22万件の判例と要旨・解説、官報、日経四紙の記事などの検索が可能。

(3) えひめ資料室・伊予俳諧文庫(4階)

- ・愛媛県行政資料(藩政期・明治期)の電子化：絵図117点、冊子616点をマルチタッチディスプレイで閲覧可能。



「水産例規」(請求記号：M10-01-01)

- ・古文書解読講座：郷土史研究者が講師。毎月第4日曜日に開催。

(4) 展示(7月)

「つくってみよう かいてみよう(子ども読書室)」
「写真家白川義員の世界(3階)」
「Let's Go! 健康診断(医療健康情報)」
「子どもと作る 工作(子育て支援情報)」
「愛媛FC今年の見どころ(愛媛プロスポーツアーカイブス)」
「本がおもしろい！本もおもしろい！～夏に読もう！映像化された本～(YA)」
「2014年受入 えひめ資料室収集資料(えひめ資料室)」
「愛媛県立図書館80年のあゆみ展 戦前の県立図書館の活動(えひめ資料室)」
「長高水族館部『チーム・ニモ』の論文を読もう!!(えひめ資料室)」

県立図書館は、「県民にとって役に立つ図書館」を目指し、「知の拠点」として活用していただけますよう図書館サービスの向上と情報発信に努めてまいります。「困ったときは図書館に行こう！」「分からないことは図書館員にきこう！」。

皆様のご利用をお待ちしております。

二番町から堀之内へ

昭和40年代から50年代の県立図書館

平成27年は愛媛県立図書館が設立されてから80周年、現在の教育文化会館に移転・開館してから40周年にあたります。そこで長年にわたって勤務された元職員の吉見八重さんに図書館の歴史、思い出を振り返っていただきました。

昭和の時代、松山市二番町の堀に面した一角には、旧県立図書館(以下、旧図書館)、旧日本銀行松山支店、伊予銀行本店の、堂々として美しい建物が並んでいた。

旧図書館は、昭和10年から40年間、戦災にも耐えぬいて、松山市二番町4丁目7番地1に存在していた。

前庭に「井上要翁頌徳碑」(井上要翁は伊予鉄道会長を辞職後、図書館の建設資金を寄付された。碑は現在、梅津寺公園(旧・梅津寺パーク)に移設されている。)があり、建物は3階建(書庫6階)で、堅牢な外観のなかにも、建物内外に美しい曲線をほどこすことでやさしさを感じさせる造りだった。

当時は、閉架中心の図書館が一般的であったため、利用者が自由に手に取ることのできる図書は数千冊程度で、それに対して閲覧室はフロアの半分ほどを占めるほどの広さで、連日受験生を中心とする学生たちで賑わっていた。

昭和40年代になると、蔵書数が書庫の収蔵能力を大きく超え、物置きとして使われていたあらゆる小部屋にまで図書や雑誌などが収納されるようになり、ついに昭和50年、図書館は堀之内へ新築移設されることになった。



二番町時代の県立図書館(昭和35年)

県立図書館における資料の館外への移動は、戦争末期に一部の貴重な資料を牛車に引かせて松山市山越付近に疎開させたという話を聞くのみであり、全資料の一斉移動は前代未聞のことだった。

しかも、1カ月足らずで引っ越しを済ませて仮開館(正式開館は引っ越しから3カ月後)という厳し

いスケジュールのもと、早業ともいえるべき作業が展開された。引っ越し時には、段ボール箱ではなく、みかん用のキャリーが使用された。さらに途中から作業の遅れを取り戻すためにキャリー運搬用のレールまで敷かれて、連日、業者間で指示し合う声と運搬時のガラガラというコロの金属音が図書館中に響きわたっていた。

引っ越し作業完了後まもなく、旧図書館の取り壊しのための工事が始まり、クレーンからぶら下がった大きな鉄球が建物に次々と穴を空けていく様を見て、当時の職員は胸をしめつけられるような想いにかかれたものである。

堀之内の新図書館では、旧図書館に比べて建物面積が大幅に増え、さらには伊予俳諧文庫室や文書室等の設置によって、県立図書館として保存すべき地域資料を収集・保存する環境が整った。

このことから、当時急速に失われつつあった各地域の古文書類を積極的に収集できるようになり、また、著名な郷土史家の方々から収集された資料の寄贈の申し出が相次ぎ、この時期は愛媛県に関する資料が一気に充実していった時代といえる。



新図書館落成式での職員集合写真(昭和50年)

図書館サービスに必要な要素としてあげられるのは、建物、資料、職員の3つであるが、中でも職員の貢献度は大きな割合を占める。旧図書館と現図書館、それぞれの時代に、その時代にそった業務を果たすことによって、大きな業績を残された職員の方々は数多い。その中から、次の方々(故人)をご紹介しておきたい。

* 村上昭男氏 (館長補佐)

昭和 40 年代中頃まで、当時の愛媛県立図書館のレファレンスデータベースそのものといえる働きをされた。愛媛県に関することはもとより、想定される質問に対応するための覚えを、細かいことまで小さな短冊状の紙に書き留めて、膨大なツールを作成されていた。



村上昭男氏

コートのように長い黒の事務服と坊主頭が印象的なもの。静かな方で、若かった私は親しくお話することなどできなかったが、図書館員としての高い意識と誇りを感じさせる方だった。

* 越智通敏氏 (館長)

昭和 44 年から昭和 51 年の退職までに、「伊予俳諧文庫」「伊予八藩土地関係資料」「愛媛県行政資料」「虚子文庫」など、県立図書館の貴重な資料の再分類・整理と冊子目録の作成作業を、自らの手で成し遂げられた。

当時の作業は手書きまたはタイプで行われており、目録原稿を作成されている時期は、館長室から毎日カシャンカシャンという和文タイプを打たれる音が聞こえていた。



越智通敏氏

* 松下茂幸氏 (専門員)

昭和 45 年に日本図書館協会は『市民の図書館』において公共図書館の新しいモデルを提示し、これが公共図書館の大きな転機となった。このことを念頭に、移転を機に、開かれた県立図書館を目指して第一歩を踏み出すきっかけをつくられた。

また、新しくなった図書館では、所蔵する資料を紹介するための展示スペースが確保され展示活動が活発になったが、その中心的存在として活躍された。

なかでも、昭和 57 年第 36 回読書週間記念「郷土出身者著作展」をきっかけに、後に新居浜市出身のイラストレーター故真鍋博氏の印刷物を中心とした全資料

がご遺族より寄贈され、「真鍋博コレクション」として保存されることになった経緯は感慨深い。



「郷土出身者著作展」(昭和 57 年) の職員集合写真。前列左端が松下茂幸氏。

図書館界には、昭和 40 年代以降、サービスの変容、コンピュータ導入、インターネット社会の到来など、それまでの図書館では予想もつかなかった大きな変化の流れが押し寄せてきた。

愛媛県立図書館もその流れの中で、特に二番町から堀之内へと場所を移した昭和 40 年代後半から 50 年代にかけては、80 年という歴史のなかでもっとも大きく変容した時代だったのではないかと考える。

(元職員 吉見 八重)

4 階えひめ資料室では**愛媛県立図書館設立 80 周年・教育文化会館開館 40 周年記念「愛媛県立図書館のあゆみ展」**を開催中です。現在は「教育文化会館時代の県立図書館」をテーマに懐かしい写真や貴重な資料で図書館のあゆみを振り返っています。ぜひご来場ください(平成 28 年 3 月まで、えひめ資料室内壁面ガラスケース内)。



写真は 9 月の展示風景です。10 月は内容が変わります。

新サービスの紹介

平成 27 年 4 月から 3 つの新サービスを開始しました。

「愛媛県立図書館図書遠隔地返却サービス」

遠隔地に居住する県民の皆様が、県立図書館に来館して個人で借りた図書を、お近くの市町の図書館等の窓口に返却することができるサービスです。御利用の都度、県立図書館での事前手続きが必要で、専用貸出袋に図書を入れて貸し出し、返却施設の開館時間中に、窓口（ブックポストは不可）へ袋ごとお返しいただきます。

これまで遠隔地の県民の皆様には、個人負担で図書を郵送返却するなど御不便をおかけしてきましたが、御利用していただきやすくなりました。お近くまで来られる際には、ぜひ県立図書館に足をお運びください。多数の図書の中から御自身で好きな図書を選んでお借りいただけます。その際、遠隔地返却サービスを御利用いただくと便利です。

サービス開始 3 か月で、ちょうど延べ 100 名の方に利用手続きをしていただきました。順調に御利用くださり嬉しく思います。同時に、より一層、多くの県民の皆様の御期待に応える図書館にしていかなければと身の引き締まる思いです。

また、一方、県立図書館の図書は、協力貸出しという方法で、当館に御来館されなくても、お近くの図書館を通して貸出しすることができます。最寄りの図書館にお尋ねください。

皆様の御利用をお待ちいたしております。

(相談グループ 柚山 紀子)

「真鍋博コレクション」館内閲覧

新居浜市（旧別子山村）出身のイラストレーター・故真鍋博氏の著作物等を収集したコレクションです。

コレクションの中心となるのは、イラストや著作が掲載された図書・雑誌・新聞及び装幀に携わった出版物等で、これらの中には、1960 年（昭和 35 年）第 1 回講談社さし絵賞を受賞した「第七地下壕」（モルデカイ・ロシュワルト著）を収載する『朝日ジャーナル』や、星新一、筒井康隆、アガサ・クリスティなど、20 世紀を代表する SF 作家、ミステリ作家の装幀を手掛けた作品群があります。また、各種パンフレットやカレンダー、切手、パッケージ用品など多様な形態のものも含まれ、このコレクションをより個性的なものにしています。

真鍋氏と県立図書館とのつながりは、昭和 57 年に当館で開催した「郷土出身者著作展」に始まります。多数の蔵書や作品を御提供いただくとともに、その後

も資料の寄贈を続けてくださり、これらがコレクションの土台となりました。

平成 12 年に、真鍋氏が亡くなった後、御遺族からたくさんの旧蔵資料が当館に寄贈され、現在では約 3 万点を擁する資料群となっています。

「真鍋博コレクション」は、特別取扱資料で、館内閲覧となります。閲覧の 1 週間前までに、閲覧の申込みをお願いします。

なお、平成 27 年 8 月 29 日から、4 階えひめ資料室のロビーで、コレクションを紹介する常設展示を行っていますので、ぜひご覧ください。

(図書整理グループ 水野 千恵子)

「雑誌スポンサー制度」

民間事業者が、図書館が定期的に購入している雑誌リストの中から、希望する雑誌の購入代金を負担することで、その雑誌のスポンサーになることができる制度です。事業主はスポンサー雑誌の最新号カバーに広告を掲載し、雑誌を広告媒体として来館者に情報を発信することができます。また、図書館は図書館経費を効率的に運用し、図書館サービスの向上を図ることができます。

平成 27 年度は県内 17 の事業者の方に、21 誌の雑誌スポンサーになっていただいています。(スポンサー企業、団体名は県立図書館ホームページに掲載しています。)今年度は、雑誌購入費約 20 万円をご負担いただいています。4 階えひめ資料室の郷土資料の拡充を中心に、3 階一般図書室内に設置している課題解決を支援するための資料や、1 階子ども読書室の資料の購入に充て、幅広い年齢層の来館者に利用されています。

身近な社会貢献として、年間約 21 万人が利用する図書館で雑誌に広告を掲載してみませんか？

スポンサーの募集は 12 月頃に県立図書館ホームページにてお知らせいたします。ぜひご覧ください。

(図書整理グループ 石川 暁子)



雑誌スポンサー制度導入により、購入した資料の一部(4 階えひめ資料室)

ブックトーク 10年目の歩みと、子どものための講演会

「ブックトーク」をご存じですか？

ブックトークとは、あるテーマに沿って選んだ何冊かの本を、つながりを持たせながら紹介し、子どもたちの「読んでみたいな」という興味・関心を引き起こすものです。

愛媛県立図書館には、「子ども読書支援センター」が併設されています。愛媛県の子どもの読書活動の推進を図る拠点として、子どもたちへのサービスはもとより、子どもの読書活動の推進に関わる人々や機関・団体等への支援を行っています。

その中で重要なのが、学校との連携です。「子どもと本の出会い推進事業」として行っている「ブックトーク」もその一つです。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

愛媛県立図書館のブックトーク事業は、今年で10年目を迎えます。読書推進のための取り組みとして普及を目的に始めた事業ですが、初期には希望する学校も少なく、実施にあたり困難もあったようです。しかし、近年、市町の図書館や学校でもブックトークが行われ、多くの子どもたちがいろいろな本と出会うきっかけとなっています。

愛媛県立図書館のブックトーク事業は、さまざまなテーマで実施しています。

① フリーブックトーク

学校から依頼されたテーマで行います。

② ブックトーク&メディカルトーク（高校生）

ブックトークと医療に携わる方の取組等について話を聞きます。

③ キャリアトーク（高校生）

進路に関わるブックトークをします。

④ ブックトーク&エコトーク

ブックトークと、環境問題に取り組んでいる方に環境の現状や環境汚染防止策等について話を聞きます。

⑤ ブックトーク&ヒューマントーク

ブックトークと、県内在住の国際交流員に、外国と日本の文化の違い等について聞きます。

また、学校の授業の教科・内容に合わせたブックトーク「授業DEブックトーク」も募集し、実施しています。今年度は、14校のブックトークと、10校の授業DEブックトークを予定しています。

6月、Y中学校からスタートしました。「福祉」の学習の前に、「みんなのしあわせを考える」とい

うテーマでブックトークを実施しました。福祉の知識を調べる本と読み物・シリーズの本を、合わせて7冊紹介しましたが、しっかりと聞いてくれました。貸し出した本も多くの生徒が利用して調べ学習に活用されました。



同じく6月に、K小学校でブックトーク&エコトークを実施しました。地元の大きな川的环境について調べている実態に合わせて「川は生きている」をテーマにしたブックトークと、松山市内の環境問題に取り組んでいる企業の方にお話をいただきました。わかりやすく実験を交えながら環境を守ることの大切さを伝えていただきました。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

子どものための講演会

直接子どもたちに働き掛ける支援センターの事業の一つとして、専門家を招いた講演会を毎年、夏休み期間中に行っています。今年度のテーマは「未来へ届け！漂流ビン～本から始まる造形遊び～」。県内で「子どもたちの造形遊び教室 若」を主宰されている、宮崎和香先生をお迎えしました。

はじめに、絵本『ぶどう酒びんのふしぎな旅』の初めの部分を読み聞かせ、ビンが漂流して変化していくイメージを伝えました。そして、流木で栓をしたビンを選び、20歳の自分にあてた手紙を書いてビンに詰め、封をしました。将来の自分に思いをはせながらタイムカプセルのようなビンを大切に持ち帰って帰りました。成人式を迎えるころ、ふっと思い出してビンを開け、読み返してくれるとうれしいですね。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

支援センターの業務を通して、子どもたちに大きな力をもらっています。特に、近くに図書館がなく、本との出会いが難しい地域の皆さんにも、楽しい本を紹介できるよう頑張っています。

子ども読書支援センターをぜひ御利用ください。

(読書振興グループ 松浦 雅人)

愛媛県読書グループ連絡協議会 総会並びに読書推進大会が開催されました

6月30日(火)、松山市道後姫塚のにぎたつ会館にて「愛媛県立図書館 80周年記念 愛媛県読書グループ連絡協議会総会並びに読書推進大会」が開催され、県下各地から読書グループ関係者、読書教育関係者、読書愛好者等169名が集まりました。

「愛媛県読書グループ連絡協議会」略して「県読連」とは、1964年12月に発足し、今年で創立52年を迎える伝統ある団体です。「伝えよう読書のよこび、広げよう感動の輪」をスローガンとし、県内の読書グループ活動の相互理解と更なる普及・発展を目指して、日々実践を重ねています。



事例発表では、内子町立大瀬保育園保護者会の中野桃子様に、子どもの時してもらった読み聞かせを、御自分の家庭でも子どもたちに実践している様子をお話いただきました。当館水野千恵子担当係長による県立図書館80年の歩みの発表もありました。

研究協議では、多数の方から感想や意見を聞くことができました。年に1回、県内の読書グループ会員が集まって意見交換ができるのも、この大会の魅力の一つです。

また、午後からは香川県出身の直木賞作家、芦原すなお先生をお招きし、「小説と私」と題した講演を行っていただきました。小学生の頃から小説家になりたいと考えていたこと、両親の話、読んできた本、夏目漱石について、学生時代のこと、最初の作品を出版した時のことなど、小説とご自分の関わりを楽しくお話していただきました。文化・小説は、役に立つものでも儲かるものでもないが、人生を立体的に見るようにさせてくれ、より深い人生を生きる助けになるとの熱い思いが伝わる御講演でした。

今後も県読連は魅力ある活動を目指し、続けてまいりますので、興味をお持ちの方は是非御入会ください。問い合わせは愛媛県立図書館までお願いします。(読書振興グループ 白石 直美)



愛媛県立図書館の利用案内

【開館時間】

火曜から金曜…午前9時40分から午後7時まで
土・日・祝日…午前9時40分から午後6時まで
子ども読書室…午前9時40分から午後5時まで

【休館日】

月曜日(祝日の場合は、直後の平日)
年末年始(12月29日～1月3日)
特別整理期間(10日以内で館長が定める日)
館内整理日(毎月末日、ただし、その日が上記休館日、土・日曜日に当たるときは館長が定める日)

【駐車場】

図書館専用の駐車場はありませんが、**県庁西駐車場**(旧国際交流センター跡地)を2時間ご利用いただけます。ただし、駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

【付近略図】



編集・発行 愛媛県立図書館

〒790-0007 松山市堀之内
TEL 089-941-1441 (代表) FAX 089-941-1454
<http://www.ehimetosyokan.jp>
e-mail:tosyokan@pref.ehime.jp (代表)